

# 「底が突き抜けた」時代の歩き方 470

年表から飛び出してくる 1968年 - 1974年

1974年

**東南アジア歴訪の各地で田中首相に反日デモの嵐** 1月9日、東南アジア5カ国歴訪中の田中角栄首相一行、フィリピンに次ぐ訪問国タイのバンコクで学生の激しいデモに見舞われる。一行の通過する沿道、宿舎のエラワン・ホテル、タイ首相との晚餐会場など行く先々に数千人の学生が待ち構え、「田中、カエレ」「経済侵略反対」などと叫んだ。

エラワン・ホテル周辺には5千人の群衆が集まり、田中首相の似顔絵や日本車の模型を焼いたほか、日本のデパートのショーウィンドーを割るなど、首相も「予想以上」ともらすほどの激しさだった。総輸入の半分近くを日本商品が占めるタイでは、日本企業の進出などにより毎年の対日赤字が約580億円にもなると、日本の経済支配に対する不満が高まっていた。一行は16日までシンガポール、マレーシア、インドネシアを歴訪するが、訪問先の各地で同様の反日デモに遭遇。とくに15日、インドネシアのジャカルタでは一万人のデモが暴動化、日本大使館の日の丸が焼かれたうえ、日本車など車200台が放火され、鎮圧に出動した軍隊の発砲で負傷者も出る事件となった。

**日本赤軍、世界各地でゲリラ活動** 1月31日、日本赤軍とパレスチナ解放人民戦線(PFLP)のゲリラが、イギリス・オランダ系シェルシンガポールの石油精油所のタンク爆破。

2月6日、別のゲリラがクウェートの日本大使館を占拠し、シンガポール・ゲリラの脱出機要求、日本政府要求受諾。5月15日、パレスチナ解放民主人民戦線(PDFLP)のゲリラがイスラエルのマロット村襲撃。

9月13日、日本赤軍のゲリラ3人がハーグにあるフランス大使館占拠、パリで勾留中の日本人ゲリラの釈放要求、30万ドルで人質解放。

2月13日、「収容所群島」発表後、政府の迫害下にあったソ連の作家アレクサンドル・ソルジェニーツィン(56) 国外追放処分を受け、西ドイツへ送られる。

**小野田少尉、ルパング島から帰還** 3月12日、フィリピンの離島ルパング島のジャングルに潜んでいた小野田寛郎陸軍少尉(51)が、羽田空港に30年ぶりに帰還。小野田少尉は第二次世界大戦の敗戦まぎわに、自軍の退却後も現地に残って敵の諜報活動をする「残置諜者」を命じられ、任務を守りつづけていた。2月26日、放浪の鈴木紀夫青年(24)と接触して発見され、3月10日、かつての上官が現地に飛び、「作戦行動ノ停止」を「かたつ下達」、ようやく小野田少尉に「終戦」が訪れた。小野田少尉は空港で、「お国が富める立派な国という喜びで、勝ち負けは問題ではない」と語ったが、マスコミの取材攻勢にうんざりし、翌年4月、兄の住むブラジルに移住。

**甲山事件** 3月19日、西宮の心身障害者施設の浄化槽で園児二人死亡、保母逮捕へ。

3月30日、福岡地裁、被爆治療のため密入国した韓国人に対して、原爆医療法は被爆者であれば密入国者でも適用とする判決。

4月3日、韓国ソウルで反政府デモ。朴大統領、反政府組織「民青学連」に対して緊急措置第4号発動。5日、日本人学生二人逮捕（7.15懲役20年の判決、75.2.17帰国）。

7月13日、詩人の金芝河（<sup>キム・ジハ</sup>33）ら民青学連事件の関係者7人に死刑判決。

**史上空前のゼネストで二日間列島マヒ** 4月11日、公労協・官公労など81単産、600万人が国民生活要求・スト権奪還・賃上げを掲げ、ゼネスト突入。国鉄、初の全面運休（4.13収束）

75年11月26日、三公社五現業（国鉄・電電公社・専売公社、郵便・林野・印刷・造幣・アルコール専売）の総評系9単産で組織された公共企業体等労働協議会（公労協、86万人）史上空前の規模の統一ストライキ。三公社五現業労働者は団結権・団体交渉権のみ認められ、ストライキを禁じられていたため、このスト権奪還が目的の「スト権スト」だった。ストの影響で首都圏の私鉄は300%を超える通勤ラッシュとなった。

この日、公共企業体等関係閣僚協議会専門委員懇談会座長の小野吉郎NHK会長は、公労協の「法の改廃を實力で勝ち取ろうとする」姿勢を批判した意見書を政府に提出。かえってストに油を注ぎ、公労協は28日、12月5日まで連続10日間の国鉄全面ストストップ決議。29日には全通ストの影響で郵便滞貨は3500万通以上に達するが、政府は強硬な姿勢を貫き、三木首相は「スト権ストに妥協しない」と表明。12月3日、8日間にわたるストライキは何らの成果を見ぬままに終了。このスト権スト後、労働組合の組織率は低迷、85年4月に電電公社・専売公社が、87年4月に国鉄が民营化される。

**ポルトガル革命** 4月25日、午前0時30分、ラジオ・レサセンサから流れ始めた反戦歌「グランドラ、ヴィラ・モレナ」を合図に、ポルトガル「国軍運動」の指揮下にある機械化部隊がリスボンに向かって進軍、クーデターの幕が切って落とされる。4時20分、国軍運動司令部から革命決起の放送があり、国軍運動は12時すぎ、無抵抗のうちにポルトガルの主要機関をほぼすべて掌握。午後6時、共和国護衛隊に引き籠もっていたマルセロ・カエタノ首相（68）はアントニオ・デ・スピノラ将軍（64）に政権委譲。半世紀近く続いたサラザール＝カエタノ独裁体制が崩壊し、革命成功の報に長い抑圧から解放された国民は街頭に繰り出して、クーデターに参加した兵士たちの銃にカーネーションの花を挿し、革命の成功を喜び合う。26日、救国軍事評議会議長スピノラ将軍、ただちに秘密警察と事前検閲の廃止など民主化を実施し、植民地戦争の停戦を声明。

5月1日、73年の地価上昇、過去最高32.4%。

5月4日、小型ヨットで単独無寄港世界一周に挑んだ堀江謙一が、277日の早回り世界新記録樹立。

5月6日、西ドイツのヴィリー・ブラント首相（61）、前月25日に発覚したギョーム・スパイ事件の政治的な責任を取り辞任する、と発表。56年に東ドイツから亡命したブラントの個人秘書ギユンター・ギョーム（45）はブラントの側近となり、妻と

共に東ドイツのためにスパイ行為を働いていた。ソ連・東欧諸国との和解を図り、東ドイツの存在を認める「東方政策」を推進してきたブランドにとって今回の事件は、これまでの努力が水泡に帰す、まさに進退極まる一大事だった。後継首相に蔵相のヘルムート・シュミット（56）指名、16日に新内閣成立。年末にギョーム13年、妻8年の禁固刑判決、刑期満了前の81年、東西ドイツ間の相互スパイ交換により、東ドイツ側に釈放。

5月9日、伊豆半島でマグニチュード6.8の大地震、30人死亡。

5月10日、公害等調整委員会、足尾鉍毒事件につき調停案提示。11日、双方が受諾し、100年目で調停成立。

**コンビニ1号店開店**5月15日、アメリカ系コンビニエンスストアのセブンイレブンが大手スーパーのイトーヨーカ堂と提携、江東区豊洲とよすに第1号店開店。12人で新会社を設立して半年、直営店に先立つフランチャイズ店でのスタート。共働き世帯や単身者、夜行性の若者の生活スタイルにマッチし、年中無休、長時間営業のミニ・スーパーは急成長、都市生活に不可欠なものとなる。

5月18日、インド6番目の核保有国に。

7月1日、アルゼンチン大統領ペロン（79）死去、副大統領で夫人のイサベル・ペロン（43）が大統領に昇格。

7月23日、ギリシア軍事政権崩壊、文民政権復活。

8月8日、ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任。

8月15日、光復節記念式典会場で朴大統領狙撃され、夫人死亡。犯人の在日韓国人、文世光逮捕。

**連続企業爆破事件**8月30日昼すぎ、東京・丸の内ビル街の三菱重工本社で、予告電話の直後、強力な時限爆弾が玄関前で爆発、社員、通行人など8人死亡、重軽傷者385人にのぼる大惨事に。トラベルウォッチを時限爆弾に使用した手製のダイナマイト爆弾だった。事件から一カ月後、「東アジア反日武装戦線 狼」と名乗るグループの犯行声明がひそかに配布される。

75年5月19日、警視庁は足立区の会社員佐々木規夫（26）ら「東アジア反日武装戦線」の8人を逮捕。キャップ格の斎藤和（27）は取調室で毒入りカプセルを飲んで服毒自殺。斎藤の内妻浴田由紀子（24）、大道寺将司（26）・あや子夫婦の三人も飲もうとしたが、係員に気づかれて失敗。佐々木らのアパートなど18カ所を捜索、除草剤など爆弾材料を発見。平岡正明氏、太田竜氏、レボルト社創設に参加した佐々木祥氏の自宅も関連捜査。犯人グループを洗い出したのは、爆弾の時限装置に使うトラベルウォッチを大量購入したさいの領収書をゴミ箱から拾い、これが最大の物的証拠となった。

23日、「狼」，“牙”，“さそり”，の「組織名」は、「東アジア反日武装戦線」と同一グループと断定。桐島聡（21）、宇賀神寿一（22）を爆発物取締罰則違反容疑で全国に指名手配。

25日、自供により、三菱重工（74/8/30）、三井物産（74/10/14）、帝人中央研究所

(74/11/25) 大成建設ビル(74/12/10) 鹿島建設(74/12/23) 間組本社(75/2/28) 間組大宮工場(75/2/28) 韓国産業経済研究所(75/4/19) 尼崎オリエンタルメタル(75/4/19) 間組江戸川作業所(75/4/27) 横河工事会社京成江戸川作業所(75/5/4)の11件の内容がほぼ明らかに。

26日、佐々木を除く6人は、「戦前、日本帝国主義は朝鮮、アイヌ、沖縄の人民を踏みつけてきた。我々はその帝国主義の子孫であり、敗戦後に再開された日本の新植民地主義侵略、支配を断じて許すわけにはいかない」と犯行の正当性を主張。警視庁は、「アイヌ、朝鮮、台湾、沖縄人民の反日帝闘争記念日」テロで、8/30は54年の在日朝鮮人への圧迫に抗議、10/14は25(大正14)年の小樽高商事件、11/25は1895(明治28)年の明治政府による台湾討伐、12/10は37(昭和12)年12月13日の東京大虐殺、12/23は53年12月24日の韓国・国家保安法可決、2/28は47年の台湾独立運動で大虐殺、4/19は60年の韓国・学生革命記念日、4/27は52年4月28日の沖縄・アメリカ施政下に、5/4は19(大正8)年の中国の五・四運動にそれぞれ当てはまる。

28日、旭川市の「風雪の群像」(72年10月) 同月の札幌市の「北大アイヌ資料室」など4件も「東アジア反日武装戦線」の犯行と断定。逮捕された荒井まり子(24)の姉(26)は、国鉄常磐線の列車から飛び降り自殺。

6月16日、共犯として元法大生藤沢義夫(25)の逮捕状を取ったが、13日に自殺していたことがわかる。

8月5日、日本赤軍クアラルンプール事件で、佐々木規夫は「超法規的措置」で出国。他に坂東国男、西川純、戸平和夫ら計5人出国、坂口弘は拒否。

77年10月1日、日本赤軍の日航ハイジャック事件で大道寺あや子と浴田由紀子、「超法規的措置」で出国。87年3月24日、最高裁、上告棄却の判決、大道寺、益永(旧姓片岡)利明被告死刑、黒川被告無期懲役、荒井被告懲役8年の刑が確定。

88年9月1日、大道寺、益永両被告、「殺意なかった」と再審請求。

91年6月29日、最高裁、棄却。

9月1日、日本初の原子力船「むつ」は8月25日朝に出発予定だったが、放射能汚染を心配する地元漁民が約250隻の漁船団で包囲、出港を阻止。にらみ合いが続くなか、折りから接近していた台風14号の影響で、夜になって陸奥湾は強風と高波に洗われ、漁船団は包囲を解いたが、そのスキについて「むつ」は15時間遅れで出港、まさに前途の波瀾を思わせる船出となった。28日に出力臨界実験に成功した「むつ」は9月1日、原子炉の出力上昇試験に入ったところで警報ブザーが鳴り、放射能漏れが判明。洋上修理が不可能なため母港へ帰港しようとするが、青森県知事と地元漁民は猛反対、入港拒否される。沿岸への仮停泊もできず、以後51日間にわたって洋上漂流。

9月10日、ラロック米退役海軍少将、米議会で日本への核持ち込み証言。

**エチオピア革命** 9月12日、この年2月の一部兵士による反乱以来、政情不安の続くエチオピアで事態が急転。改革の中心勢力である急進派の軍部調整委員会が急速に台頭

し、前月末からは皇帝一族による不正蓄財を厳しく糾弾するキャンペーンを展開、皇帝ハイレ・セラシエ 世(84)を廃位し、軍総司令官アマン・アンドム中將を議長とする臨時軍部行政評議会が全権を掌握。世界最古、伝説的なシバの女王以来、3千年の歴史を有するエチオピア王室は、ここにその幕を閉じた。この後新政権はしだいに改革色を強め、12月には社会主義に基づく国家建設宣言、土地改革などの改革に着手。更に翌年3月に帝政廃止を正式決定、8月に最後の皇帝ハイレ・セラシエは幽閉されたまま病死。

10月7日、大手繊維メーカーの東洋紡績、不況の深刻化と発展途上国の激しい追い上げにあって、生産部門の従業員の15%に当たる3300人の希望退職者募集。

10月7日、全国サリドマイド訴訟、原告63家族と国・大日本製薬が11年ぶりに和解。

10月10日、立花隆「田中角栄研究 - その金脈と人脈」掲載の「文藝春秋」11月号発売。

**長島茂雄現役引退** 10月14日、「ミスター・ジャイアンツ」長島茂雄選手(38)が後樂園球場で行われた対中日戦を最後に、17年間の選手生活に別れを告げる。球場は、栄光の「背番号3」の最後の姿を見ようと、ウィークデーにもかかわらず5万人のファンで超満員。ダブルヘッダーにフル出場した長島は、9打数でホームラン1本を含む4安打、最後まで燃えて「引退まだ早し」の声も聞かれた。

長島は58年の入団以来、新人王をはじめ首位打者6回、本塁打王2回、打点王5回などのタイトルを獲得。終身打率3割5厘、本塁打444本の記録を残した。華麗でダイナミックな守備、勝負強い打撃、天真爛漫な性格が幅広いファンを獲得した。

試合後の引退セレモニーでは、「わが巨人軍は永久に不滅です」の名セリフを残し、シーズン後、川上哲治監督に代わり、巨人軍7代目の監督に就任。

**ラバト会議** 10月26日、モロッコの首都ラバトで第7回アラブ首脳会議開催、28日、パレスチナ解放機構(PLO)は、ヨルダン川西岸の統治権と国家設立の権利を認められる。

11月13日、アラファトPLO議長(45)、ニューヨークの国連総会でパレスチナ民族独立への支持を訴える。22日、総会でパレスチナの民族自決権が認められる。

**モハメッド・アリ王座奪還** 10月30日、アフリカ・ザイールの首都キンシャサで行われたプロ・ボクシング世界ヘビー級タイトルマッチで、32歳の元チャンピオン、モハメッド・アリが圧倒的不利の下馬評を覆して、現チャンピオンのジョージ・フォアマンを8回KO勝ちし、67年に徴兵拒否でタイトルを剥奪されて以来、実に7年ぶりの王者復活。試合は日本でも中継され、「奇跡の復活」を遂げたアリの人気は上昇、テレビ・コマーシャルにも出演。

**田中首相辞意表明** 11月26日、田中角栄首相(56)、自民党の椎名悦三郎副総裁ら幹部を官邸に招き、退陣表明。辞任に当たって「私の決意」を発表し、「最近の政局の混迷は、少なからず私個人の問題に端を発している」と述べた。辞任の直接の原因は、立花隆「田中角栄 - その金脈と人脈」(「文藝春秋」11月号)で、「コーレイ会社」を使った巧妙な政治献金ルート、「土地転がし」や選挙での金のバラマキなど、金権体質の実態が明らかになり、以後、マスコミと野党の集中砲火を浴び、政局が混乱したことにあった。

辞任の背景には、「日本列島改造」による地価高騰やインフレ激化に対する国民の不満があった。発足当初60%を超えた内閣支持率も急降下し、12月9日には政界浄化を目指して三木内閣発足。田中は85年、脳梗塞で倒れ、89年10月、政界引退表明。

(事物) インスタント味噌汁「あさげ」

(流行語) 便乗値上げ 狂乱物価 千載一遇 超能力 それはいえる 青天のへきれき  
ゼロ成長 諸悪の根源 節約は美德 日曜大工 ベルばら 金脈と人脈 ストリー  
キング このシゲキがたまらないのデス スプーン曲げ 暴走族 デタント

(TV) 「寺内貫太郎一家」「未来への遺産」「ニュースセンター9時」「鳩子の海」「パンチDEデート」「赤い迷路」「座頭市物語」「勝海舟」「右門捕物帳」「愛と誠」  
「傷だらけの天使」「アルプスの少女ハイジ」「宇宙戦艦ヤマト」「サウンドイン  
S」「われら青春」 \*1月NHK、電力制限で昼間1時間と夜11時以降放送中止  
3/7ユリ・ゲラー超能力TV放送 9月放送用語規制で禁句の換言  
「気違いに刃物」 「変な奴だから刃物をもたせるな」

(CM) 「アンタ外人だろ、英語でやっごらんよ」坊屋三郎/クイントリックス 「近頃  
気になることがある」花王石鹸 「 と日記には書いておこう」龍角散ト  
ローチ 「クミコ、君をのせるのだから」日産チェリー 「雁風呂」山口瞳/  
サントリー 「海岸通りのぶどう色」資生堂 「夕暮れに灯りがともる」ヤマ  
ギワ電気 「このジャンパーの良さがわからないなんて」(糸井重里新人賞受賞)

(映画) 「砂の器」「サンダカン八番娼館・望郷」「華麗なる一族」「青春の蹉跎」「竜馬  
暗殺」「仁義なき戦い・頂上作戦」「襟褸の旗」「赤ちょうちん」「妹」「女囚さそり・7  
01号怨み節」「濡れた欲情・特出し21人」「卑弥呼」「ねむの木の詩」「小林多喜二」  
「極私的エロス・恋歌1974」「キャロル」「エクソシスト」「ペーパームーン」「エマ  
ニエル夫人」「燃えよドラゴン」「追憶」「スティング」「フェリーニのアマルコンド」「叫  
びとささやき」「アメリカの夜」「ブルジョワジーの秘かな愉しみ」「ジーザス・クライ  
スト・スーパースター」「デリンジャー」「カンバセーション盗聴」「セルピコ」「戒厳令」  
「パピヨン」「ダラスの熱い日」「最後の晚餐」「アラビアンナイト」「エアポート'75」

(コミック) 「野球狂の詩」「浮浪雲」「トーマの心臓」「アサッテ君」「ファラオの墓」「が  
きデカ」「三丁目の夕日」「宇宙戦艦ヤマト」「ダボシャツの天 怒濤編」

(歌) 「襟裳岬」「ひと夏の経験」「昭和枯れすすき」「二人でお酒を」「赤ちょうちん」「く  
ちなしの花」「しのび恋」「うそ」「わたし祈ってます」「私は泣いています」「闇夜  
の国から」「精霊流し」「傷だらけのローラ」「岬めぐり」「ふれあい」「積木の部  
屋」「グッドバイ・マイ・ラブ」「スモーキン・ブギ」

\*井上陽水の「氷の世界」、初のミリオンセラー

(本) リチャード・バック(五木寛之訳)「かもめのジョナサン」 中村鉦一「やせる  
健康法」 花登筐「どてらい男」 小峰元「アルキメデスは手を汚さない」 阪田寛夫  
「土の器」 日野啓三「あの夕日」 藤本義一「鬼の詩」 半村良「雨やどり」 井出

孫六「アトラス伝説」 水上勉「一休」 三木卓「震える舌」 丸谷オー「横しぐれ」  
「金芝河詩集」 大岡昇平「中原中也」 花田清輝「日本のルネッサンス人」 山川  
菊枝「覚書幕末の水戸藩」 灰谷健次郎「兎の眼」 高史明「生きることの意味」 ロ  
ラン・バルト「表徴の帝国」 ホイジンガ「ホモ・ルーデンス」 桑原甲子雄「東京昭  
和十一年」 \* 7 / 29 訪韓中の日本ペンクラブの藤島泰輔、白井浩司理事の「金芝河  
事件は言論弾圧ではない」発言に対して、有吉佐和子、司馬遼太郎、瀬戸内晴美、水上  
勉、黒岩重吾ら抗議集会、8 / 5 両理事辞任、11月中村光夫会長に

(AMUSE) 1/4キース・ジャレット公演(東京・厚生年金会館) 3/9ザ・ドリフタ  
ーズ、志村けん新メンバーに 3月都内にストリーカー(全裸で街を走る)  
出現 4/20モナ・リザ展(東博)開幕、大盛況、一日平均3万人強の新  
記録 4/27東京・夢の島で状況劇場「唐版・風の又三郎」初演 5/22 5  
年ぶり武智歌舞伎公演 8/29宝塚「ベルサイユのばら」初演(長谷川一夫  
演出) 10月アンダーグラウンド蠍座閉場 11月新宿アートシアター終演

(スポーツ) 4/8大リーグ、ハンク・アーロンがベープ・ルースの714本を破る715  
本目の本塁打 6/16 18歳のビョルン・ボルグ、全仏オープンテニス優勝  
10/15王貞治、初の二年連続3冠王 12/8フランク・ショーター(米)、福岡  
国際マラソンで大会初の4連勝

(LIFE) 1/16電力使用制限令発動、ネオン・広告塔など 1/29 6大都市でタクシー  
29%暫定値上げ(東京220円)以降、便乗値上げの狂乱物価始まる 4/2  
新宿西口に新宿住友ビル完成 10/1三井ビル完成 4月サーティーワン・アイ  
スクリーム第1号店、東京・目黒区に開店 6/30動物虐待理由に上野動物園  
の「お猿の電車」廃止 7/11新宿・渋谷・高田馬場・御茶ノ水・四ツ谷の5  
駅で「禁煙タイム」開始 10/1米、国鉄、医療費、都市交通、郵便小包など  
公共料金一斉値上げ。東京都区部の10月消費者物価は対前年同月比25.  
8%の上昇で、2月の狂乱物価を上回り、49年5月以来の暴騰 10/5銀座  
・新宿に土曜歩行者天国 10/23国際癌学会で丸山ワクチン発表  
\* 集団就職列車、姿消す \* 高校進学率90%超す

以上、60年安保闘争以降の61年から74年まで、<1968年>にむかって年表を  
作成してきたが、以下に61年から始まった「釜ヶ崎」の不穏な表情の歴史を追っておく。

61年8月1日、通称釜ヶ崎で夜、労働者が車にはねられ死亡、「警察の交通事故の  
処理の仕方がまずい」と付近の労務者や住民約300人が派出所に押しかけ、窓ガラス  
を割り、パトカーや通行中の車を襲い、火をつけるなどの騒ぎ発生(第一次釜ヶ崎暴動)。

2日、午前1時すぎ、群衆は2千数百人となり暴徒化。機動隊は催涙ガス弾で鎮圧。  
この日の夜は1万人以上に膨れ上がり、西は南海阪堺線霞町駅、東は南海天王寺線の市  
大病院西側踏切付近、北はジャンジャン横丁の入り口付近までが完全な無法地帯に。国  
電、南海、市電、自動車と、派出所に破壊と連続放火。3日、午前零時すぎからガス弾

を使ったが、効果なく警官6個中隊(約700人)を招集、初めて警棒の使用を命じる。頼りにならぬ警察に代わって猟銃をもったヤクザ約50人が自警団を組織、群衆と渡り合う。夜を迎え、完全武装の機動隊と群衆とが激しく衝突、各所で負傷者続出。

4日、午前1時半、ほぼ鎮圧状態。4日間で死者1人、警察官、群衆など負傷者約690人(警察官の負傷211人)、逮捕者は82人に及ぶ。

66年5月28日、碁会所で火事があり、消防車の出動が遅いことから労務者たちが騒ぎ出し、パチンコ店に投石、警官を襲ってピストルを奪ったほか、警官詰め所に放火する騒ぎ(第二次釜ヶ崎暴動)。

6月21日、パチンコ店で労務者と店員のもめごとから再び群衆騒動。この地区は先月28日に起こった「第二の釜ヶ崎事件」ののち、「愛隣地区」と命名されたばかり。

67年6月2日、食堂で70円の無銭飲食をした男を店員が殴ったのをきっかけに、労務者が集まり、同食堂の冷蔵庫などを路上に持ち出し、蹴ったりしているところから群衆が増え、午後10時半には約2500人が集まり大乱闘。警官が出動、西成署は無銭飲食をした労務者ら11人逮捕(第三次釜ヶ崎暴動)。3日、再び約2千人が集まり投石。

4日、交番や郵便局、飲食店などが投石で壊され15人逮捕、うち3人は同地区の者ではなかった。5日、大阪府警捜査4課、騒ぎの扇動者は万博目当てに関東から流れてきた暴力団と断定。このため警官4500人を動員し、強力警備で群衆制圧を決定。

70年12月30日、職にあぶれた日雇い労務者約500人が労働福祉センター職員を監禁、同センターの詰め所に火をつけ、民衆を襲い、道路を占拠するなど暴れまわる。万博景気が去り、69年4月以来の騒ぎ。

71年5月25日、4日間にわたり暴動(第四次)。

72年5月1日、釜ヶ崎メーデーで組合員が3人逮捕されたことに西成署へ抗議(第五次)。28日、早朝、「暴力手配師追放」などを呼びかけるビラを配っていた新左翼系労働者約10人と、鈴木建設興業会長(38)が口論、同興業の手配師ら数人が木刀や棒で新左翼系労働者に殴りかかる。これを見た近くの労働者約200人が手配師を取り囲んで乱闘、更に労働者は2千人にふくれあがり、同興業の乗用車を引っくり返して放火、全焼させ、付近の商店にも投石。夜も騒ぎは拡大し、多数の車が炎上、商店街のガラスが割られ、南海電鉄も運行をストップ。

6月28日、大阪府警、騒動は新左翼系組織・釜ヶ崎共闘会議(釜共闘)の扇動と断定、同共闘代表ら6人逮捕。また釜共闘の中に入り込んでいる赤軍派が事件を計画したのではないかとみて、同派の拠点である「赤軍ラーメン」こと勝浦飲食店、釜共闘本部の「野鳥の会」事務局など9カ所搜索。

75年1月30日、釜共闘、三角公園のテント村にバリケード構築。2月25日、機動隊出動。26日、テント村撤去。6月25日、釜共闘の船本洲治、皇太子訪沖に暗殺断念し抗議焼身自殺。12月25日、四天王寺が労務者の宿泊断り、大阪駅ガード下に移動し布団敷くが、機動隊出動し撤去。越年闘争。 2005年3月13日記